



■ この一年で、久山町研究及び健診事業に携わったスタッフから多くの教授が誕生しました。



平成28年4月就任 有馬久富先生  
福岡大学医学部 衛生・公衆衛生学 主任教授



平成28年6月就任 二宮利治先生  
九州大学大学院医学研究院  
衛生・公衆衛生学分野 教授



平成28年10月就任 福原正代先生  
九州歯科大学 総合内科学分野 教授



平成29年3月就任 米本孝二先生  
琉球大学医学部 先端医学研究センター  
生物統計分野 分野長・特命教授



平成29年4月就任 角森輝美先生  
福岡看護大学 地域・在宅看護部門 教授・部門長

■ 平成28年8月より半年間、久山町研究室の小原知之医師がクアキニヘルスシステム（米国ハワイ州）にて、認知症の共同研究を行いました。



アラモアナビーチにて



クアキニメディカルセンターにて講演

# 平成28(2016)年度の活動

## 久山町研究

### ■ 健診事業

平成28年度の生活習慣病予防健診は、同年6月24日から8月22日までの計26日間久山町ヘルスC&Cセンターで行われ、40歳以上の受診者数は2,649名であった。健診では、問診、身体計測、血圧測定、内科診察、採血、75g経口糖負荷試験、検尿、心電図、骨密度検査、呼吸機能検査、眼科検診、歯科検診を実施した。

### ■ 牛乳・乳製品の摂取がメタボリックシンドローム等に与える影響に関する疫学研究

平成20年度より、株式会社明治および中村学園大学との共同研究において、牛乳・乳製品摂取がメタボリックシンドローム等の生活習慣病に与える影響を検討してきた。今年度は、平成14-15年に行われた久山町の住民健診の受診者を対象とした断面調査において、乳タンパクと筋肉量(握力や除脂肪体重)の関係を検討した。さらに、同対象者の追跡調査の成績を用いて、乳タンパクが糖尿病、高血圧発症に与える影響を検討した。解析は継続中である。

### ■ 生活習慣病の発症予測システム「健康みらい予報」に関する研究

久山町における追跡調査の成績より作成した心血管病および糖尿病発症の予測モデルを用いて、株式会社野村総合研究所とともにこれら疾患の発症予測システム「健康みらい予報」を開発・商品化した。ユーザーより発生する「健康みらい予報」に関する医学的・統計学的な問い合わせの対応業務を前年度に引き続き、野村総合研究所から受託した。

### ■ 久山町研究における血中脂肪酸と生活習慣病との関係に関する共同研究

平成23年3月より、持田製薬株式会社および九州大学との共同研究において、久山町の地域住民における血中脂肪酸と生活習慣病との関連について検討している。今年度は、平成14年に設定した久山町集団で明らかにした血中エイコサペンタエン酸(EPA)/アラキドン酸(AA)比とうつ病に関するデータの学会発表を行い、論文作成を開始した。さらに、同集団の追跡調査の成績を用いて、EPA/AA比と慢性腎臓病発症の関係を検討した。(文責 二宮利治)



久山町研究室スタッフ(久山町ヘルスC&Cセンター)

■ この一年で、臨床研究部門担当の九州大学大学院医学研究院病態機能内科学のお二人が教授に就任されました。



平成28年10月就任 松村潔先生  
九州大学大学院医学研究院 附属総合コホートセンター 教授



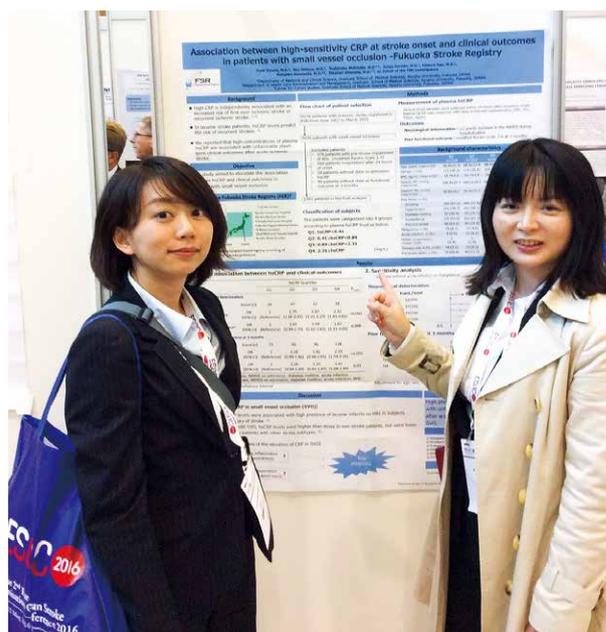
平成29年4月就任 鶴屋和彦先生  
九州大学大学院 医学研究院 包括的腎不全治療学 教授

## 福岡脳卒中データベース研究 (Fukuoka Stroke Registry: FSR)

### ■ 多施設共通データベースを用いた脳卒中に関する臨床疫学研究

平成29年3月末までに同意を取得した患者総数は13,475名、データ入力を完了した患者総数は12,979名となった。同意取得率は89.5%、追跡率は91%と依然として高水準を維持している。今年度は、医療情報の包括的構造化の目的で病院情報システムおよび医療画像保存システムを活用した、情報収集・統合システムの構築を開始した。実際の運用方法については各施設の状況を調査している。また、今年度も登録患者の臨床データに対し疫学的手法を用いて解析を行い、得られた結果を以下の通り発表した。

学会発表は、国内学会としては第41回日本脳卒中学会総会(札幌)で7題、第42回日本脳卒中学会総会(大阪)で8題、第57回日本神経学会学術集会(名古屋)で2題、第3回日本心血管脳卒中学会学術集会(東京)2題、第113回日本内科学会(東京)、第32回日本脳神経血管内治療学会学術集会(神戸)、第66回日本病院学会総会(盛岡)で各1題の発表を行った。国際学会としてはInternational Stroke Conference 2016(米国・ロサンゼルス)で1題、European Stroke Organization Conference 2016(スペイン・バルセロナ)で3題、Asian Pacific Stroke Conference 2016(オーストラリア・ブリスベン)で2題の演題を発表した。これらの発表内容は学術誌に投稿あるいは投稿準備中である。平成28年にはStroke誌1編、Cerebrovasc Dis誌2編、PLoS One誌1編の計4編の論文が掲載された。



第2回ESOC 2016(スペイン・バルセロナ)  
脇坂佳代先生(左)、喜友名扶弥先生(右)

## ■ 越境大気汚染に含まれる粒子成分が脳卒中発症に及ぼす影響に関する研究

国立環境研究所と共同で越境大気汚染物質が脳梗塞発症に及ぼす影響について解析した。PM2.5などの浮遊微小粒子状物質への曝露と脳梗塞発症までの時間の関連性についてケースクロスオーバー法を用いて解析を行った。得られた結果はStroke誌に掲載された。

## ■ 軽症脳梗塞および高リスク一過性脳虚血発作患者の疾病負荷および心血管アウトカムに関する研究

アストラゼネカ株式会社と共同で、軽症脳梗塞および高リスク一過性脳虚血発作患者の疾病負荷および心血管アウトカムに関する研究を行った。平成28年度は、対象患者5,450名の3カ月および1年後の脳卒中再発、心血管イベント、死亡との関連性について解析した。得られた結果は、European Stroke Organization Conference 2016で発表し、さらに学術誌への投稿を予定している。

## ■ 脳梗塞におけるバイオマーカー探索、解析 (REBIOS、REBIOS 2) / 再解析 (R-REBIOS) に関する共同研究

## ■ 脳梗塞におけるバイオマーカーの検証に関する共同研究 (VREBIOS)

脳梗塞患者の登録は終了し、バイオマーカーの変動結果に対して機械学習手法を用いて解析を行った。システムバイオロジーの観点から因果推論を行い、脳梗塞に伴い変動するタンパク質全体の解明を試みている。

## ■ 医療プロセスが脳卒中患者の予後に及ぼす影響に関する研究

登録患者に対する診療行為情報を電子的に収集し、リレーショナルデータベースSQLを用いて、臨床情報とレセプト情報を統合したデータベースを構築した。FSRに登録された臨床情報とDPC・レセプト情報の比較を行うことで、レセプト情報に入力されたデータの信頼性について検証した。また、日本医療研究開発機構「脳卒中を含む循環器病対策の評価指標の開発に関する研究」(班長飯原弘二・九州大学脳神経外科教授)の研究分担課題として、脳卒中医療の質に関する評価項目(クオリティ・インディケーター)を可視化し、その信頼性と妥当性についてFSRの臨床情報、DPC情報を用いて検証した。

(文責 鴨打正浩)



FSR-CRCスタッフ一同(FSR-CRC会議にて)

## 福岡腎臓病データベース研究 (Fukuoka Kidney Disease Registry : FKR)

### 腎臓病に関する臨床疫学コホート研究

#### (1) 新規腎生検症例登録による腎生検コホート (FRBR)

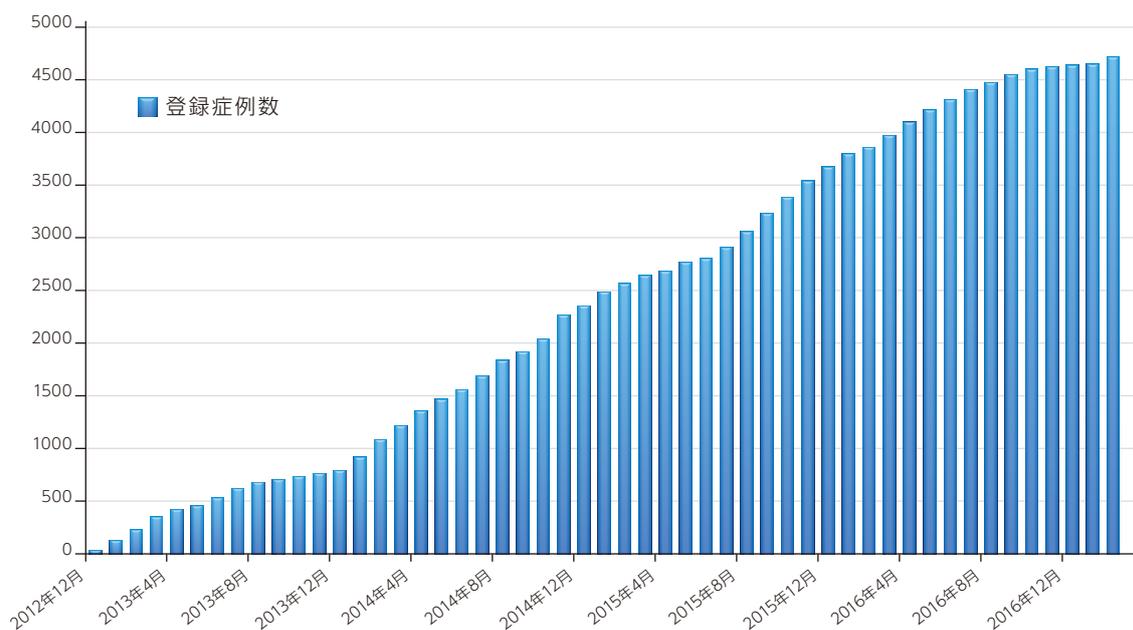
平成28年2月末時点で総数275名の新規腎生検症例を前向きデータベースに登録し、臨床データの収集ならびに腎組織、血液、尿、DNAなどの採取・保存を行った。九州大学病院においては、腸内細菌叢と腎疾患の関連に着目し、便試料の収集も開始し順調に症例蓄積が進んでいる。

#### (2) 保存期CKD症例登録による前向きコホート (保存期FKR)

今年度11施設において症例登録を完了し、現在1施設(製鉄記念八幡病院)において症例登録を進めている。平成29年2月末現在の本データベースの同意取得患者総数は、4,442名となった。

当該年度は本研究の意義や研究成果を広く社会に発信するため、本研究の広報用ホームページを作成した。また、本研究の計画を記したポジショニングペーパーがClinical and Experimental Nephrology誌に採択、掲載された。

総登録4,717例  
(保存期4,442例、腎生検275例)



#### (3) 既存腎生検症例による後ろ向きコホート

前年度に引き続き、1979年～2010年の間に生検を施行されたIgA腎症1,500の後方視的な臨床疫学的解析を行った。得られた知見に関して、第59回日本腎臓学会学術総会(横浜)で1演題、第48回米国腎臓学会(シカゴ)で1演題を発表した。これらの発表内容のうち、Hypertension Research誌に1編が採択、掲載された。(文責 鶴屋和彦)



大学院生を交えた研究ディスカッション  
於 コラボ・ステーション FKRミーティングルーム

## 福岡県糖尿病患者データベース研究 (Fukuoka Diabetes Registry : FDR)

本研究は糖尿病患者の治療法の改善を目指した前向きゲノムコホート研究である。平成20年より登録を開始し、5,131名の糖尿病患者に毎年追跡調査を行っている。今年度は当初5年間の追跡調査(第1期調査)の脳卒中や心臓病、がんなどの各イベントについて入院カルテや診療録を基に確認作業を行い、死亡についてその死因を確定した。5年間の死亡者は320名(追跡率97%)であった。死因の内訳は、悪性腫瘍が115名と最も多く、ついで脳心血管病77名、感染症62名の順であった(図)。

また昨年度10年間の追跡調査期間の延長(第2期調査)が九州大学で承認されたが、取得していた同意書は最初の5年間の調査に対するものであったため、新たに同意書を取得する必要性が生じた。今年度は九州大学病院を皮切りに、3カ所の共同研究施設で登録患者からの同意取得を行った。共同研究をお願いしている関連病院の先生方や開業医の先生方のご協力を得て、調査は順調に進んでいる。

学会発表は、第59回日本糖尿病学会総会(京都)で6題の発表を行った。平成28年には2編の論文が欧文誌に掲載された。(文責 中村宇大)

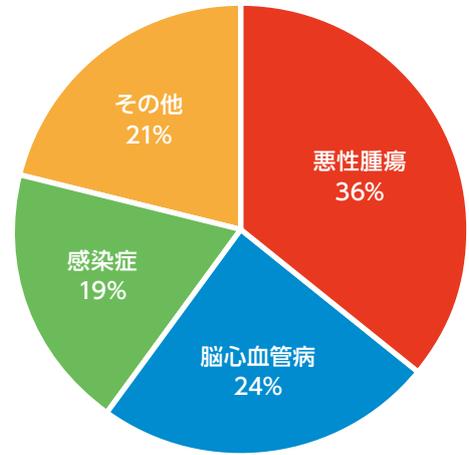


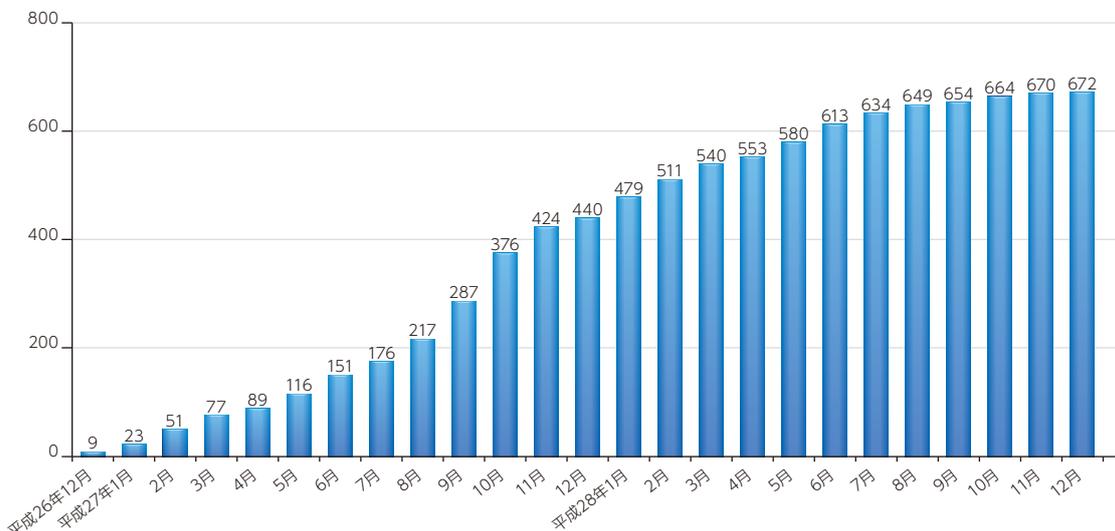
図 糖尿病患者5,131名の死因(追跡5年間 死亡320名)

## 福岡高血圧コホート研究 (Fukuoka Hypertension Cohort : FHC)

福岡高血圧コホート研究:Fukuoka Hypertension Cohort (FHC) Studyは、多施設共通データベースを用いた高血圧患者の病態解明に関する疫学研究である。九州大学病院と病態機能内科学高血圧・血管研究室の関連施設を中心とした参加施設に通院中の高血圧患者を対象としてコホート集団を形成し、登録時に通信機能付き家庭血圧計を用いた家庭血圧調査を行うとともに、背景因子の調査、臨床検査、生活習慣に関するアンケート調査、Mini Mental State Examination (MMSE)による認知機能検査(65歳以上)を行い、5年間追跡する予定としている。

平成26年12月より九州大学病院、製鉄記念八幡病院で患者登録を開始し、問題点を修正しながら研究計画書の変更を行った。平成27年度は、九州医療センター、九州中央病院、かわさき内科循環器科クリニック、大牟田病院、門司掖済会病院と登録施設を順次広げた。平成28年度は藤島クリニックで登録を開始した。新規登録は平成28年12月31日までで終了し、総数672名の登録を終了した。登録後1年または2年が経過した症例に関しては、血圧や血液・尿検査などの臨床データを収集した。今後登録時のデータの解析を開始し、学会並びに論文投稿を行っていく予定としている。(文責 大坪俊夫)

### 症例登録数672例



## 役員 (H29年5月1日 現在)

## ■会 長

尾前 照雄 国立循環器病研究センター  
名誉総長

## ■代表理事

清原 裕 久山町ヘルスC&Cセンター長  
九州大学 名誉教授

## ■副代表理事

久芳 菊司 久山町町長  
北園 孝成 九州大学大学院 医学研究院  
病態機能内科学 教授  
(常務理事を兼任)

## ■理 事

飯田 三雄 公立学校共済組合  
九州中央病院長  
石橋 達朗 九州大学 病院長  
井手 義雄 社会医療法人 雪の聖母会  
理事長  
岩城 徹 九州大学大学院 医学研究院  
神経病理学 教授  
上野 道雄 国立病院機構  
福岡東医療センター 院長  
小田 義直 九州大学大学院 医学研究院  
形態機能病理学 教授  
角森 輝美 学校法人福岡学園 福岡看護大学  
地域・在宅看護部門 教授  
梶山 千里 公立大学法人福岡女子大学  
理事長・学長  
鴨打 正浩 九州大学大学院 医学研究院  
医療経営・管理学 教授  
久保 千春 九州大学 総長  
中野 昌弘 国立病院機構福岡東医療センター  
名誉院長  
二宮 利治 九州大学大学院 医学研究院  
衛生・公衆衛生学 教授  
貫 正義 九州電力株式会社  
代表取締役会長  
松田 峻一良 公益社団法人 福岡県医師会 会長

## ■監 事

木下 康一 久山町議会 議長  
中西 裕二 中西裕二公認会計士事務所 所長

五十音順・敬称略

ご寄付をいただき  
ありがとうございます

平成28年度は、総額13,200,000円の寄付を頂戴しました。この場をお借りして改めて感謝の意を表します。

早川 亨 様

松井 和弘 様

あさの内科クリニック 院長 浅野 有 様

医療法人吉成会 理事長 吉成 元孝 様

医療法人中村内科医院 理事長 中村 晋 様

社会医療法人雪の聖母会聖マリア病院

理事長 井手 義雄 様

社会医療法人製鉄記念八幡病院

理事長 土橋 卓也 様

社会医療法人青洲会堤病院

理事長 中村 幹夫 様

シスメックス株式会社

代表取締役会長兼社長 家次 恒 様

他匿名 1個人、4団体 様

当法人は、九州大学病態機能内科学ならびに衛生・公衆衛生学を中心とした臨床研究と疫学研究成果を活用し、生活習慣病の予防と治療法の開発を通じて国民の健康福祉の推進に貢献することを目的としています。事業活動にご理解とご賛同をいただき、是非ご寄附をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

なお、当法人への寄付金は、特定公益増進法人への寄付金として、所得税・法人税の税制上の優遇措置が適用されます。詳しくはホームページ [www.hisayamalife.or.jp](http://www.hisayamalife.or.jp)をご覧ください。